

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表（公表）

公表： 2020年 2月 8日

事業所名：こどもサポート教室「きりり」備前三門校

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5			個々の利用者のニーズに合わせて支援スペースの調整を心がけている。
	②	職員の配置数は適切であるか	5			適切である。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	5			施設の配慮は適切である。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	5			担当または担当以外のお子様の状況や目標などを職員間で共有することで対応力の向上を図っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5			保護者様からの評価をいただき、各々のご家族の意向を把握して果然に取り組んでいる。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5			毎年自己・保護者向け評価をして、その結果を会報やホームページで開示している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5			現在外部は実施していない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5			定期的に研修の機会をいただき、受講している。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	5			お子様の無意識に発信する課題やつまづきそうな因子を察知・分析し、計画に網羅できるようにしていくことを目標とする。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5			ニーズの変化に伴い、どのアセスメントツールが適切なか瞬時に察知できるようにすることを目標とする
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5			立案をチームで実施しながら、個々の特性に沿った対応の統一や許容対処などを模索していけるようにする。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5			個々のお子様の心情が汲み取れながら課題に即せる導き方を模索する。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5			利用者の状態に応じて課題の設定を複数案準備しながら休暇における対応を同様に実施している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	5			集団活動が必要と感じるお子様や保護者に適切に集団療育事業所の紹介をして利用を促せるようにしていく。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5			振り返り・確認事項のアウトプットし合うことで、的確に連携を図れるようにしていく。

	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5			保護者様との連携が長引くことがあるので、緊急的な連絡・連携事項は別時間で連携を図れるようにしていく。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5			記録の徹底を図り、誰が読んでも判りやすく簡潔な文面の統一を図っていく。
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	5			適切な計画の見直しを実施できるように課題やつまづきの前兆を予測しながら保護者との連携を大切にしていく。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	5			個々の利用者によって課題へのアプローチとして毎時間複数案の支援を準備して取り組むようにしている。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5			サービス担当者会議における担当職員の出席が随時できるようになることを目標とする。（支援時間で難しい時がある為難しい時は児発管が参画）
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	5			保護者の希望や要望によって学校機関との連絡調整を行えるように準備している。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	5			現在、在籍する該当のお子様は利用はないが、対象のお子様の利用が生じた場合は主治医との連絡体制を整えていく。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	5			保護者との連携を密にすることで信頼度を獲得し、入園、または進級のタイミングで、療育利用事業所として保護者の意向で文書明記してもらえる様に取り計らえることを目標とする。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	5			保護者や利用者の意向や要望で情報提供をしていく。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5			連携やご助言の頻度を上げて、療育の質の向上や意識向上を図れるようにする。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			5	今後、左記活動などを導入できる環境づくりができるようにすることを目標とする。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	5			継続して参加し、他の事業所との療育における情報共有や支援の展開・工夫などができるようにすることを目標とする。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5			保護者の思いとお子様の状態についての擦り合わせや発達の兆しを保護者と共有して療育と生活環境での意向の一致を図れるようにする。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			5	個々のご家族の支援プログラムで保護者の対応力の向上を図れるようにすることを目標とする。

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5			運営規定や負担額等について、明確に説明できるように心がけていく。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5			保護者様の意向とお子様の状態に対応して柔軟に擦り合わせする為に細目に情報伝達を図っている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			5	双方または複数の保護者から連携を求められた場合には対応できるようにしていく。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			まずは苦情に陥らないように体制を整え、状況が発生した場合は迅速かつ丁寧に対応できるように心がける。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5			定期的な活動の概要開示、または「きらり」の利用情報などもリアルタイムで発信できるようにしていく。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	5			個人情報の徹底を図り、職員の意識の維持の為、定期的に個人情報の保持の徹底の意義を唱えていく。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5			保護者様の意向とお子様の状態に対応して柔軟に擦り合わせする為に細目に情報伝達を図っている。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			5	今後は地域の方々を招待できるような行事を企画し、地域に開かれた事業運営ができるように心がけたい。
非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	5			定期的な訓練を定着させて、緊急事態に冷静かつ迅速な対応ができるように取り組んでいく。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5			定期的な訓練を定着させて、緊急事態に冷静かつ迅速な対応ができるように取り組んでいく。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5			支援中の何気ない声かけや動作にも「虐待」に相当する言動が隠れていることにも意識を高めて対処していく。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	5			「身体拘束ゼロ」を厳守し、代替となる支援の工夫、動作保護に徹し、支援中の指導員の動作の中に該当する動作も含有しうるので、個々のお子様の支援打ち合わせを入念にするよう取り組んでいく。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			5	お子様の状態把握は確認して支援中の急な変化に迅速に対応できるように取り組んでいく。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5			支援中の注意力の向上を常に図りながら、些細な危険が潜伏している場面でも見逃すことがないように意識向上を図っていく。

保護者等向け 放課後等デイサービス評価の集計結果（公表）

公表：2020年 2月 8日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」備前三門校

保護者等数（世帯数）28：回収数 20：割合：71%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見、ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17	3		広ければ広いほどありがたいですが、今のままで十分です。本人が安心して通えている。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	18	2		先生方が忙しそうで大変だと思いました。
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	11	8	1	支援ブースの有効な使い方や工夫をしていく。
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画 ⁱ が作成されているか	18	2		フィードバックで内容は理解できますが学習の進み具合を可視できればありがたい。
	⑤	活動プログラム ⁱⁱ が固定化しないよう工夫されているか	18	2		お願いした課題にも対応してくれます。
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	12	7	この活動はなくていいです。交流は望んでないので、機会がなくてもよい。
保護者への説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20			契約時や保護者の質問の際に丁寧に説明する様心がけている。
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	20			とても丁寧に対応してくださり助かっています。いつも寄り添ってくださり励ましてくれて親子でこころが軽くなっています。
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19	1		保護者の要望に適切に対応できるように心がける。
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	8	10	保護者同士の連携は望まれていないので個々の保護者との連携を密にしている。
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15	4	1	苦情等が発生した時点で原因説明・改善を図ることように取り組んでいる。
	⑫	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	19		1	庇護者とお子様の意思疎通や状態の擦り合わせに尽力していく。
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	10	6	4	LINEでもっとやりとりできたらありがたい。今後はLINE@配信の頻度を増やして「きらり」の動向を利用者にしてもらう。
⑭	個人情報に十分注意しているか	19	1		個人情報の保守を徹底していく。	

非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	14	6		各策定を冊子化したことや説明を頻繁にすることでより一層保護者に周知してもらうよう取り組む。
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	12	7	1	訓練されているかもしれませんが知りません。今後、訓練の実施等を LINE@ で配信していく。
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	18	2		「きらり」に来所することが楽しみになれるような支援の工夫に取り組む。
	⑱	事業所の支援に満足しているか	19	1		送迎サービスをオプションとしてつけてほしい。1時間以上してほしい。

i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

ii

事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。